



# Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター  
Newsletter No.41 (2011.9.30)



## 語学センター第二期機器更新完了

昨年度、春季休暇中に、語学センター第二期リプレイスが行われました。新しくなったのは、語学センター入口部分にあたるホール、408教室、自習室、事務室です。このリプレイスについて、語学センター長の横山先生からご報告いただきます。

目次：

人の心にやさしい語学センターに  
語学センター長・国際学部 横山知幸先生・・・1

ミニコラム：情報科学研究科 若林真一先生・・・2

プロンツィーノの両面矮人図・・・・・・・・・・・・・・3

いちだい知のトライアスロン  
「多文化共生入門」との連携企画報告・・・・・・4

視察報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

## 人の心にやさしい語学センターに

語学センター長・国際学部教授 横山 知幸

平成22年度に語学センターの第二期機器更新が完了し、平成23年度からは完全に新しい語学センターの設備になりました。新しい語学センターは、一言で言うなら、「人の心にやさしい語学センター」です。少し具体的にイメージしてみましょう。

関係の情報が提示されています。留学、資格試験、などなど。美術館の展示のような感じと言うのは大げさですが、語学センターが、落ち着いた雰囲気、やさしくみなさんをお迎えするのは確かです。



◆ホールのディスプレイ部分を仕切って、授業用の上映空間に



◆明るくなった廊下の掲示板では、留学・検定情報を提供  
つきあたりはホールの簡易検索用PC

まだ語学センターを訪れたことのない方は、図書館棟の四階へ行き、廊下を奥へと進んでみて下さい。みなさんを出迎えるのは、入り口にある巨大な「103インチディスプレイ」です。その圧倒的な大きさの画面の中で、人々が様々な言葉を使って生きているのが、リアルに目と耳で感じられるはず。その反対側の壁には、6台のPCが美しく埋め込まれ、スクリーンセーバーの魚たちが、気持ちよさそうに泳いでいます。まるで水族館ですね。時々、かわいくイタズラされて、骨のような魚がいるのはご愛敬。ちょっと立ち止まって、メールのチェック、ネットで調べものをするなどというのも、便利でいいかも知れません。

さらに進んで、今度は自習室に入ってみましょう。まず目を引くのは、大きな、そこに座る人を半分つつみこむような感じがするブースが並んでいることです。個室ではないのにもかかわらず、個室のように自分のスペースがそこにあることが感じられて、とても落ち着いて勉強出来るブースになっています。ブルーレイの視聴も可能になり、プリンタの数も二台から三台に増え、色々な使い勝手もかなり良くなっているはず。今度一番奥のLL408教室に行ってみましょう。ドアを開けると、多くの方が驚くはず。そこには固定式の机もイスもないから。可動式のイスのアームに簡易テーブルがついたものがあるだけです。学生は授業の形態に合わせて、自由な位置に座ることが出

さらに廊下を進むと、センサーがみなさんを感じ、やわらかいあかりを廊下にともします。廊下の壁にはホワイトボードが並び、様々な語学関

(P2へ続く)

ミニコラム 外国語に想う【36】

「私と英語」

副学長・情報科学研究科教授  
若林 真一



ギリシャ クレタ島にて

私が初めて出会った外国語は、多くの人と同じように、中学校での英語だった。今から40年以上も昔の出会いであり、それ以来、私と英語との付き合いは続いている。最初は授業で仕方なしに、というのが正直なところだったが、大学院に進学し、英語論文を読み書きせざるを得なくなった頃から、何故かだんだん英語に興味を湧き始めた。興味が湧いたとは言っても、普通ならば英語そのものを熱心に勉強するところだろうが、私の場合は英語に関する本を読むことが好きになり、そうした本をこれまでに数多く読んで来た。おかげで英語に関する雑多な知識は増えたが、何しろそれらの本の大部分は日本語で書かれていたので、言語としての英語の運用能力向上にはまったく結び

付かず、そのため、英語は得意です、とは未だにお世辞にも言えないままだ。それでも、英語をあちこちから眺めてきたせいも、英語に対する親近感は強い。これまでを顧みて、外国語と長く付き合うためには言葉だけを見えようとするのではなく、いろいろな角度から外国語に接するのをもひとつの方策かな、と思っている。

(P1 から続く)

来ます。少人数のグループでディスカッションなどということも出来ます。使うPCはワイヤレスのノート型。この教室は無線LANによる完全なワイヤレス教室なのです。それでも、新開発のソフトを使って、教師のPC画面を学生のPCの一部に、作業のじゃまにならないように表示させることも出来ます。逆に、学生のPC画面をスクリーンに表示させるなどということも簡単です。教師用の机も可動式のものが用意されています。教師もどンドン学生の輪の中に入ってゆけます。ここは、自由なレイアウトで教師や学生の創意工夫が生かされる空間に仕上がっているのです。どうでしょう、みなさんの工夫を、この新しい教室で試してみませんか？

また、目に見えないところでも、着実に語学センターは進歩を続けています。事務室から各教室の授業をリモートでサポートする機能も進化していますし、視聴覚機器の本格的なデジタル化も進んでいます。言われないと気づかないかも知れませんが、OSもWindows 7に、Microsoft Officeも2010になっています。語学セ

ンターは、基本的には単なる機械を詰め込んだ「はこ」に過ぎないのですが、その「はこ」を動かすための情報を提供し、授業や自学自習を強力にサポートします。機械は語学



◆完全ワイヤレスでレイアウト自在のLL408教室  
Hiroshima&Peace 事前研修（中央は岩井教授）

の本体ですが、それだけでは血の通った、生きた語学学習には、なかなかつながりません。それを動かす人こそが、ある意味もっとも重要なものなのです。

さて、この語学センターをさらに良いものにしていくためには、ここを使っていただくみなさんのお知恵を拝借する必要があります。どうぞみなさんの感じていることを私たちに伝えて下さい。人間のすることですから、良いところも不十分なところもあるでしょう。出来ることも、どうしても出来ないこともあるでしょう。しかし、先ずはそこから、さらなる未来を考えていきたいと思えます。



◆より集中して作業しやすくなった、個室のような自習室ブース

## イタリア美術巡礼(3)

## ブロンツィーノの両面矮人図

裏側にはその肖像の背面像があるようなそんな肖像画、見たことがありますか？ ヴァザーリの「列伝」によればコシモ1世が注文して制作された本図は、1553年版メディチ家財産目録にも、“画布の両面に描かれた矮人モルガンテの肖像”と記載されている。キャンバスの表裏に正面像と背面像が描かれている。

正面は小太りのモルガンテが、これみよがしの英雄的、あるいは役者的ポーズをとる。全裸だ。ヴィーナスと同じく。

羽根をひろげて威嚇するようなふくろうを右手にかざし、左手に捕縛した紐を持つ。画面右上部に飛ぶ鳥。下部に2匹の蝶。うち1匹が横向きで彼の陰部を隠している。地上に切り株2つ。何の隠喩か。

背面にまわろう。右手に7、8羽の獲物の小鳥を束ね、左手には捕獲用の銃に似た器具を持つ。左肩には真意を問うような視線でこちらを凝視する小ふくろう。誰かが誰何し、それに反応してふりむいた、モルガンテの口を開けたままの顔面表情。両眼の中間部に鼻梁はなくむしろ陥没した印象を与える。臀部、脚部のふくらみが「醜」であるかもしれない。エーコは『醜の歴史』に本図部分図を収録している。

\*

現在、高級ブランド店が並ぶトルナブオーニ通りに面して、ルネサンス期パラッツォ建築の代表格、ストロツィ宮が建つ。外観は要塞のように重々しいが中に入れば2層の回廊が囲む中庭の空間が明快で合理的にして豪壮である。ここで開催のブロンツィーノ展を2010年の末に運よく訪れ得た。ストロツィ家はメディチ家と競うフィレンツェの名門貴族。ブロンツィーノ(1503-72)の活躍期に既にこの軍事兼用の宮殿は完成しており、彼もまたここを往事訪れてもいたであろう。ブロンツィーノはトスカナ大公となるメディチの当主コシモ1世の宮廷画家。

\*

マントヴァ、パラッツォ・ドゥカーレのマンテーニャが描く《結婚の間》(1474年)のゴンザガ公の宮廷には愛敬満面のはりきり少年「こびと」がいる。プラド美

術館蔵、ベラスケス屈指の《ラス・メニーナス(侍女たち)》(1656年)のフェリペ4世の宮廷には名の知れた「侏儒」女官が登場している。宮廷には決まって矮人がいる。彼、彼女らはなぜ数世紀にわたって宮廷に起居しえるのか。何の必要か。さらに、サーカスで猿と共演する矮人の

の出番については現代の僕らはどう考えるべきなのか。いや、そもそも矮人とは何か。侏儒、こびと、一寸法師…。Dwarfに「(童話などの)魔力を持つ醜い小びと」との説明もあるこの言葉と実態。

そしてまた宮廷画家とは何か。ピッティ宮でパラッツォ・ヴェッキオで、絶対君主的コシモ1世に庇護された画家ブロンツィーノ自身が自問する折がなかったか否か。《コシ

モ1世の肖像》とモルガンテ像を見比べて画家の内面を考えることは、きわめてスリリングな思想ないし視想のドキュメントたりえるのではないか。

\*

《寓意図》(1546年頃、ロンドンN.G.蔵)はマニエリスムの最高作品である。パノフスキーの解釈によってイコノロジー盛行の近年の研究動向の起点となった(『イコノロジー研究(上)』175頁、ちくま学芸文庫2002年)。20世紀のマニエリスム評価とフィレンツェのマニエリストたちの前衛性はホッケの例証によって娱しみたい(『迷宮としての世界(上)』45頁、岩波文庫2010年)。

マニエリスム肖像画家ブロンツィーノについてポープ・ヘネシーは「人間の容姿を静物画のように仕上げる」と形容している(『ルネサンスの肖像画』161頁、中公美術出版2002年)。それはコシモ1世像やその妻子像、また《ルクレティア・パンチャティキの肖像》などへの達眼である。世上には“無表情、仮面、冷たい、血の通わない、石のような”とする言説が流布するけれど、モルガンテ像にこだわるかぎり画家その人が冷血漢だったとは思われない。自然科学にひらかれていく時代思潮の趨勢はあるが学術性至上の、博物図的標本視する「冷たい」視線だとも思われない。反自然のグロテスクでなく、自然順応的な豊穡への観察と賛美をこそ僕はこの絵から受けとりたい。モルガンテは鳥捕獲の名人で宮廷に十分なじんでいたという伝承がある。



《矮人モルガンテの肖像》(左、正面。右、背面) 1553年以前  
画布油彩 150 × 98cm ウフィツィ美術館蔵

いちだい知のトライアスロン 映画上映会開催 ～国際学部「多文化共生入門」との連携企画

語学センターでは、6月6日(月)～6月10日(金)の間、いちだい知のトライアスロン映画上映会を行いました。今回は初めての試みとなる、国際学部の講義「多文化共生入門」との連携企画で行いました。講義の担当教員である国際学部の佐藤先生に、映画のご推薦をしていただき、下記のテーマで5日間の映画上映会を開催しました。

テーマ：崩壊する“真実”とその再生

上映映画：『羅生門』、『シャッターアイランド』、『もののけ姫』、『夢』、『メリンダとメリンダ』

場所：語学センターホール、LL 教室



語学センターホールにて



語学センター LL408 教室にて

『もののけ姫』は、  
英語字幕 / 日本語音声、  
日本語字幕 / 英語音声の2  
パターンで上映！  
『夢』は英語字幕付きで  
上映しました。

今回は、新しく設置されたホールのディスプレイでも上映を行い、これまでの上映会とは違い、出入り自由な雰囲気の上映会となりました。語学センターでの上映会の参加者は25名、「多文化共生入門」の受講者は67名で、合計92名の参加があり、上映会は盛況のうちに終わりました。特に『もののけ姫』の参加者が多く、感想文には「自然と人間の共存」について再考されたという声が多く聞かれました。

これらの感想文は、知トラのコメント大賞の候補となるため、知トラのHPにも掲載されています。上映会に参加された学生の中から、コメント大賞が選ばれることを願っています。

今年度は、12月にも知トラの映画上映会を予定しています。詳細は未定ですが、決まり次第学内の掲示板や語学センターHPに掲載します。12月もいちだい知のトライアスロン上映会をお楽しみに！

視察・オープンキャンパス等報告

- 6月2日(木) 高等学校進路指導担当教員対象大学説明会 (20名)
- 6月7日(火) 山口県立高森高等学校2年生 (42名)
- 6月21日(火) 広島県立可部高等学校PTA (生徒も数名) (35名)
- 6月23日(木) 広島県立安芸南高等学校2年生 (44名)
- 7月5日(火) 広島県立五日市高等学校PTA (37名)
- 7月8日(金) 広島県立安芸府中高等学校2年生 (19名)
- 7月12日(火) 広島県立高陽高等学校2年生, PTA (76名)
- 7月29日(金) 広島文教女子大学附属高等学校2年生 (32名)
- 8月7日(日) オープンキャンパス (141名)
- 9月12日(月) 開星高等学校1年生 (8名)
- 9月14日(水) 広島県立吉田高等学校 (22名)
- 9月16日(金) 安芸高田市立吉田中学校 (104名)



オープンキャンパス  
CALL 講義デモ風景



安芸南高等学校  
視察風景

お悔やみ：松村幹男先生

平成7年から8年まで本学に在職されました松村幹男先生(元国際学部教授・広島大学名誉教授、英語教育史)が7月23日にご逝去されました。先生は本学の開学準備期に語学センターの立ち上げに貢献され、その後、本学の英語教職課程の設置についても大変重要な役割を果たされました。



心よりご冥福をお祈りいたします。

発行日	2011年9月30日
発行	広島市立大学語学センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集	堀本真由美 伊達美和子(内線:6410)
Phone	(082)830-1509
Fax	(082)830-1794
E-mail	lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ	http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html

